

【 エレミヤ書 11章 】

- 1 【主】からエレミヤにあったことばは、次のとおりである。
- 2 「この契約のことばを聞け。これをユダの人とエルサレムの住民に語れ。
- 3 『イスラエルの神、【主】はこう言われる。この契約のことばを聞かない者は、のろわれる。
- 4 これは、わたしがあなたがたの先祖をエジプトの地、鉄の炉から導き出したとき、「わたしの声に聞き従い、すべてわたしがあなたがたに命じるように、それを行え。そうすれば、あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる」と言って、彼らに命じたものだ。
- 5 それは、わたしがあなたがたの父祖たちに対して、乳と蜜の流れる地を与えると誓ったことを、今日のとおり成就するためであった。』」私は答えた。「アーメン。【主】よ。」

【 詩篇 】

79 : 6 どうか あなたの激しい憤りを注いでください。あなたの知らない国々に、御名を呼び求めない王国の上に。

79 : 7 彼らはヤコブを食い尽くし、その住むところを荒らしたのです。

【 ピリピ人への手紙 】

2 : 6 キリストは神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず

2 : 7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、

2 : 8 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

2 : 9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

捕囚の道のり

バビロンまでの捕囚の道のりは、エルサレムからハマテを経由するルートで1400km程ある。



希望の光バプテスト教会

2020年 9月 6日 (日)

礼拝メッセージノート

「 裁きの中で契約に立ち返れ 」

| エレミヤ書講解-26 エレミヤ書10:17-11:5 他 小野寺 望 牧師

- 17 包囲されている女よ、あなたの荷物を地から取り集めよ。
- 18 まことに【主】はこう言われる。「見よ。わたしはこの国の住民を今度こそ放り出して苦しめる。彼らが思い知るためだ。」
- 19 ああ、私は悲しい。この傷のために。この打ち傷は癒やしがたい。しかし、私は言った。「まことに、これこそ私が負わなければならない病だ。」
- 20 私の天幕は荒らされ、そのすべての綱は断たれ、私の子らも私から去って、もういない。もう私の天幕を張る者はなく、その幕を広げる者もない。
- 21 牧者たちは愚かで、主を求めなかった。それゆえ、彼らは榮えず、彼らが飼うものはみな散らされる。
- 22 声がる。見よ、一つの知らせが届いた。大いなるざわめきが北の地から来る。ユダの町々を荒れ果てた地とし、ジャッカルの住みかとするために。
- 23 【主】よ、私は知っています。人間の道はその人によるのではなく、歩むことも、その歩みを確かにすることも、人によるのではないことを。
- 24 【主】よ、私を懲らしめてください。御怒りによらないで、ただ、公正をもって。そうでなければ、私は無に帰してしまいます。
- 25 あなたを知らない国々の上に、あなたの御名を呼ばない諸氏族の上に、あなたの憤りを注いでください。彼らはヤコブを食らい、これを食らって滅ぼし、その牧場を荒らしたからです。

(4ページへ続く)

◆はじめに：「信じる」ことへの考察

1. 「信じる」ことの危うさ：裏切られるリスク⇔社会は相互の信用で成り立つ。

(1) 「『信用に値する』と相手のことを評価した自分の判断を信じる」こと？

：裏切られて傷つくことへの慰め？

- * 自分に信頼する？→聖書はむしろ人間の罪深さと不完全さを教える。
- * 「自分を信じられない」と、評した自分の判断を信じるという矛盾は？
- * 「認識する、理解する」という「既にある」ことへの応答は「信頼」と同意？
- * 「『神は信頼できる』と自分の確信を信じる」ことは救いに至る信仰か？
- * 絶対的な存在や価値を認めない相対主義の匂いがする。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| 神に従順であれ～キリストの手本

* このメッセージは、神の約束と愛の確かさについて学ぶものである。

=====

I 迫り来るさばき (17～22節)

1. 捕囚に行く準備

(1) ユダの崩壊と捕囚：バビロンに向かう準備

- ① 17-18節「包囲された女」「この国の住民」：捕囚に引かれていく民
 - ② イスラエルの民は、約束の地からバビロンへ追放される。* 行程はP.4参照
- (2) 民を偶像礼拝に導いた責任者：民の指導者「牧者たち」21節
- ① バビロンは彼らが慕っていた偶像で満ちた地
 - ② 偶像の空しさを思い知らされる。8：1-2は過去の偶像礼拝者への奪め
 - ③ バビロン捕囚以後、イスラエルの民は二度と偶像礼拝の罪を犯さなくなる。

2. 預言者が背負うべき責任

(1) エレミヤの深い悲しみ (19-22節)

- ① 理由：「天幕が荒らされ」「すべての綱が断たれ」
 - * 約束の地が踏みにじられること（蹂躪、破壊）を意味する比喩的表現
 - * 民が捕囚地に連れ去られるから
- ② エレミヤはさばきの内容や理由以外に、預言者の責務も理解していた。
 - * 悲しみに耐えることも、預言者の責務である。

II エレミヤの執りなし (23～25節)

1. 執りなしの祈りの原則

(1) 神がすべての支配者であることを認める。

- ① 自分の道は神によってのみ確かなものになる
 - * 箴言16：9「【主】が人の歩みを確かにされる」

(2) 神のさばきが厳しすぎないように祈る。* 詩79：6-7の引用

- ① さばきは徹底的であるが、イスラエルの民が滅亡する程のさばきでなく、再びイスラエルの民が立ち上がることが出来るように。
 - ② イスラエルを攻撃する異邦の民（バビロンと同盟軍）にさばきがあるように。
- (3) 個人的な復讐心ではなく、神の義が全うされることを願う。
- * アブラハム契約の付加条項（創12章）に則った祈り。神は守る責任がある。
「祝福する者には祝福を、呪う者には呪いを」
 - * 契約の民のさばきも、攻める者へのさばきも、神の義を証しする歴史的出来事。

III 契約のことばに立ち返れ (11章1～5節)

1. 神は契約に基づき行動する

(1) 神はイスラエルの民と契約を結ばれた。* 4つのヘブル的契約

- ① その契約は、民の側から一方的に破棄された状態にある。
- ② エレミヤを通して神は「契約のことばに耳を傾けよ」と迫る。

(2) 神が言及する契約

- ① ヨシヤ王の宗教改革（前621頃）につながったと考えられる。
 - * 大祭司ヒルキヤが神殿で律法の本を発見し、リバイバルした。（2列22～23章）
- ② 「契約のことば」とは：具体的には申命記の内容。
 - * 申命記は、シナイ契約（モーセ契約）に基づく律法についての注解的啓示。

2. 祝福とのろい

- (1) 王から臣下への契約（宗主権契約）：イスラエルの召しは「神の国の臣民」。
- (2) 条件付契約（双務契約）：①従順に対する祝福と、不従順に対する呪いの両面。
 - ② 祝福の内容は、物質的なものを含む（クリスチャンの祝福との違い）
 - ③ アブラハム契約に伴う土地の「所有権」と、「占有権」（外敵からの治安）は異なる。
 - * イスラエルを約束の地に住まわせるために与えたのがシナイ契約。
 - * 「所有権」は永遠だが、「占有権」は神への従順さによって変化する。

◆まとめ：神に従順であれ～キリストの手本

1. キリストの歩みは、契約の民イスラエルの模範であった。

- (1) キリストは先人が悔った契約（律法）を全うし、御父のみ旨に従い通した。
- (2) 小羊として血を流し、メシアの業を全うし、シナイ契約と律法は役目を終えた。

2. キリストの歩みは、全人類の模範である。

- (1) 主の公生涯は、神である方が人として（罪性を除いて）歩まれた。
- (2) 十字架の贖いは、罪なき方が罪人の身代わりとなり、全人類の罪を贖う行為。
- (3) まず福音を信じ、キリストの愛を受け取れ
 - ① クリスチャンはキリストの従順さを学び、喜んで神に従う者であれ。
 - ② その土台は神の確かさへの「信頼」である。